

公共事業再評価の評価書(案)について

公共事業再評価とは、公共事業の効率性及びその実施過程における透明性の向上を図るため、事業着手後、一定の期間を経過した事業について、事業継続の妥当性について再検討を行うもの。行政評価委員会での審議及び県民意見聴取を経て、行政評価委員会より答申を受けたため、評価書の要旨(案)及び評価書(案)を作成するもの。

○評価書の概要(上半期)

部局名	事業名	箇所	事業目的	事業概要	採択年度	完成年度	事業費(億円)		費用便益比(B/C)	
							変更前	変更後	変更前	変更後
農政部	農業競争力強化基盤整備事業(蕪栗沼地区)	大崎市	農業競争力強化のため、ほ場の大区画化・汎用化、用排水路や農道の整備を行い、担い手への農地の集積集約化や農業の高付加価値化等に取り組むもの。	区画整理工 A=146.5ha	H23	R6	24.5	35.0	1.66	1.06
	水利施設等整備事業(柴田地区)	大河原町	老朽化に伴う機能低下が懸念される農業水利施設(頭首工)の長寿命化対策を実施し、施設全体の機能回復を図り、用水機能を確保し、農業生産性の維持及び農業経営の安定化を図るもの。	頭首工1箇所	H26	R6	4.1	6.4	1.09	1.47
	農村整備事業(柳田峠2期地区)	丸森町	地域の農産物流通の合理化を図るほか、地域の生活道路として整備されることにより、一般車両走行の安定化と、自然災害時の地域防災力の強靱化を図り、中山間地域のコミュニティの持続性を向上させるため実施するもの。	道路整備 L=2,114m、 計画幅員 W=5.0(6.0)m	H27	R7	6.1	10.9	1.61	1.89
土木部	南沢川総合流域防災事業	登米市	南沢川は北上川の左支川であるが、河道狭隘部及び北上川本川の水位上昇の影響により、浸水被害が頻発している。このため、堤防の高上げ、河道の掘削を実施して治水安全度を向上させ、沿川の浸水被害の軽減を図るもの。	河川改修延長L=3,800m、築堤V=265,000m、掘削V=179,000m ³ 、特殊堤1箇所、道路橋4橋、樋門樋管4箇所、サイフォン1箇所、道路付替L=4,200m	H13	R20	44.0	59.0	1.12	7.29
	雉子尾川総合流域防災事業	丸森町	雉子尾川は、丸森町の手倉山にその源を発し、同町金山原町地先で阿武隈川に合流する一級河川である。雉子尾川流域の丸森町金山地区は、これまで阿武隈川の背水の影響と雉子尾川の出水により多大な洪水被害を受けていることから、河川改修を実施し、沿川の治水安全度の向上を図るもの。	河川改修延長L=6,557m、築堤105,700m ³ 、掘削84,500m ³ 、護岸5,600m ² 、帯工2箇所、道路橋3橋、樋管樋門17箇所、排水機場3箇所	S35	R20	30.8	45.0	1.85	12.18
	小田川総合流域防災事業	角田市	小田川は阿武隈川の左支川で、河道狭隘部及び阿武隈川本川の水位上昇の影響により、浸水被害が頻発している。このため、堤防の高上げ等を実施して治水安全度を向上させ、沿川の浸水被害の軽減を図るもの。	河川改修延長L=3,750m、築堤V=155,000m ³ 、掘削V=40,000m ³ 、道路橋9橋、樋門樋管12箇所、サイフォン3箇所	S50	R40	44.6	91.5	1.12	5.65

○行政評価委員会での審議

日時	内容
R5.6.19	・行政評価委員会への諮問
R5.8~9	・第1回~第3回行政評価委員会(公共事業評価部会) ・現地調査
R5.10.31	・行政評価委員会からの答申

○県民意見聴取

意見募集期間：R5.6.19~R5.7.18
提出意見数：0件

○答申の内容

答申：事業継続妥当(全6事業)

今後の事業の実施に関する意見

農村整備事業(柳田峠2期地区)

・今後工事を進めるに当たっては、現場条件を十分に精査し、コスト縮減に努めること。

各総合流域防災事業

・近年、豪雨災害が頻発化・激甚化している現状を踏まえ、事業効果の早期発現に努めること。また、その取組内容を県民により分かりやすく発信すること。

○評価結果及び県の対応

評価結果：事業継続(全6事業)

左記の意見への対応

農村整備事業(柳田峠2期地区)

今後工事を進めるに当たっては、現場条件を十分に精査し、コスト縮減に努める。

各総合流域防災事業

近年、豪雨災害が頻発化・激甚化している現状を踏まえ、事業効果の早期発現に努める。また、その取組内容を県民によりわかりやすく発信する。

公共事業再評価の評価書(案)について

公共事業再評価とは、公共事業の効率性及びその実施過程における透明性の向上を図るため、事業着手後、一定の期間を経過した事業について、事業継続の妥当性について再検討を行うもの。行政評価委員会での審議及び県民意見聴取を経て、行政評価委員会より答申を受けたため、評価書の要旨(案)及び評価書(案)を作成するもの。

○評価書の概要(下半期)

部局名	事業名	箇所	事業目的	事業概要	採択年度	完成年度	事業費(億円)		費用便益比(B/C)	
							変更前	変更後	変更前	変更後
土木部	主要地方道築館登米線(仮称)栗原IC整備事業	栗原市	みやぎ東北高速幹線道路と東北縦貫自動車道を直結するICの整備により、みやぎ東北高速幹線道路の整備効果を最大限発揮するとともに、太平洋沿岸部のリダンランシーを確保し、信頼性の高い広域道路ネットワークの構築を図るもの。	道路延長 L=2.2km 道路幅員 W=7.0m(1方向1車線) W=14.5m(2方向2車線)	H30	R11	51.0	98.0	1.19	1.27
	主要地方道丸森柴田線坂津田道路改良事業	角田市	当該事業は、阿武隈川堤防と兼用堤となっている区間で、幅員狭隘で曲折が多く、車両・歩行者の通行が危険な状況であるため、円滑で安全な交通の確保を図るもの。	道路延長 L=1.76km 道路幅員 W=6.5(10.5)m	H12	R6	14.7	27.4	2.6	3.2
	主要地方道気仙沼唐桑線化粧坂道路改良事業	気仙沼市	当該事業は、急勾配、急カーブが続く、大型車のすれ違い等が困難である区間で、現道に隣接した急傾斜地の崩壊による通行止めの危険性があるため、バイパスによる線形改良により、安全で円滑な交通の確保を図るもの。	道路延長 L=0.46km 道路幅員 W=6.5(20.0)m	H26	R7	31.7	36.9	-	1.3
	一般県道河南南郷線軽井沢道路改良事業	石巻市	当該事業の現道区間は、幅員狭隘で急カーブ、急勾配が続く線形不良区間であり、大型車のすれ違いが困難となっていることから、幅員狭隘かつ線形不良箇所を解消するため、道路改良を実施するもの。	道路延長 L=1.3km 道路幅員 W=6.0(10.5)m	H26	R10	12.9	15.3	-	2.9
	川内沢ダム建設事業	名取市	名取市内と岩沼市内を流下する一級河川名取川水系川内沢川に、同河川の治水事業の一環として治水ダムを建設し、沿川の洪水を防御するとともに、既得取水の安定化と河川環境の保全を図るもの。	重力式コンクリートダム ダム高H=39.7m 堤体積V=54,000m ³	H9	R8	135	182	1.42	1.07
	宮城野原広域防災拠点整備事業	仙台市	東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模災害時には、他県からの広域支援部隊のベースキャンプや支援物資の流通配給基地、傷病者の域外搬送拠点となるスペースが必要であることから、都市公園事業により宮城野原公園を拡張し、県内をカバーする広域防災拠点を整備するもの。	整備面積：約17.5ha 整備内容：防災センター(管理棟)、ヘリポート、芝生広場、グラウンド、駐車場等	H26	R14	300	422	1.73	1.1

○行政評価委員会での審議

日時	内容
R5.11.22	・行政評価委員会への諮問
R5.12~R6.1	・第4回~第6回行政評価委員会(公共事業評価部会) ・現地調査
R6.1.24	・行政評価委員会からの答申

○県民意見聴取

意見募集期間：R5.11.22~R5.12.21
提出意見数：23件(6名、1団体)
(うち、化粧坂道路改良事業1件、宮城野原広域防災拠点整備事業22件)

○答申の内容

答申：事業継続妥当(全6事業)

今後の事業の実施に関する意見

主要地方道築館登米線(仮称)栗原IC整備事業
・他の事業を含め、今後、事業を進めるに当たっては、各関係機関との詳細な協議や現地調査などの事前精査を十分に行い、より適切な手法を検討の上、事業費の大幅な変更が生じないように努めること。

宮城野原広域防災拠点整備事業

・近年、災害が頻発化・激甚化している現状を踏まえ、事業効果の早期発現に努めること。また、大規模災害時の効果について、災害時の不確実性を踏まえ、県民によりわかりやすい形での発信に努めること。

○評価結果及び県の対応

評価結果：事業継続妥当(全6事業)

左記の意見への対応

主要地方道築館登米線(仮称)栗原IC整備事業
今後、事業を進めるに当たり、より適切な手法を検討の上、事業費の大幅な変更が生じないように努める。

宮城野原広域防災拠点整備事業

近年、災害が頻発化・激甚化している状況を踏まえ、事業効果の早期発現に努める。また、大規模災害時の効果について、災害時の不確実性を踏まえ、県民によりわかりやすい形での発信に努める。